

原 小 繁 盛 記

令和8年6月10日

呉市立原小学校
校長 梶本浩史

〈きれいになったのはプールだけではありません〉

～プール掃除の向こうに見えたもの～

6月9日（火）、水泳指導の開始を前に、5・6年生と教職員でプール掃除を行いました。3月頃までは、藻の繁殖を防ぐための薬剤の効果もあり、プールの水は比較的きれいな状態を保っていました。しかし、暖かくなり始めた4月以降、一気に藻が繁殖し、プールは見る見るうちに緑色へと変わっていきました。

この日は、その緑色に染まったプールの水を抜き、壁面や床面、プールサイドなどを丁寧に磨き上げました。通常であれば、ここで子供たちの頑張りを紹介するところですが、今回は少し視点を変え、子供たちを支える教職員の姿に目を向けてみたいと思います。

プール掃除は、ただ集まって作業をすればよいというものではありません。限られた時間の中で安全かつ効率的に進めるためには、事前の準備や段取りが欠かせません。特に大切なのは、子供たちが「自分たちのプールを自分たちの手できれいにしよう」という気持ちをもって活動に臨むことです。そのため、5・6年生の担任は、掃除の前に目的や役割を丁寧に伝え、子供たちの意欲を高める指導を行っていました。その成果は、当日の子供たちの姿にしっかりと表れていました。

プールへ降りてきた子供たちは、自分の役割を理解し、友達と協力しながら黙々と作業に取り組んでいました。誰かに言われるからではなく、「みんなのために」「きれいなプールで泳ぐために」という思いをもって活動していることが伝わってきました。そして、子供たちを支えていたのは担任だけではありません。掃除が始まると、多くの教職員が子供たちの間を回りながら、的確な指示を出したり、「よく頑張っているね」「そこがとてもきれいになったね」と声を掛けたりしていました。その一言で子供たちの表情が明るくなり、さらに意欲的に活動する姿が見られました。

担任が育てた意欲を、学年を越えた教職員が支え、励まし、認める。そして、その積み重ねが子供たちの「できた」「役に立てた」という実感につながっていきます。こうした日々の積み重ねが、自尊感情や自己肯定感、さらには自己有用感を育てる大切な土台になっているのだと改めて感じました。

また、子供たちは先生方の働く姿もしっかりと見ています。プールの床を磨き、汚れを落とし、汗を流しながら懸命に作業する先生方の姿がありました。その姿に応えるように、子供たちもまた一生懸命に掃除をしていました。

子供たちを支える教職員。そして学校を支える5・6年生の子供たち。全員が同じ目標に向かって力を合わせたプール掃除は、プールだけでなく、人と人とのつながりの大切さも改めて感じさせてくれる時間となりました。

今年も子供たちは、気持ちよく安全な環境の中で水泳学習に取り組むことができます。子供たちのために力を尽くしてくれた5・6年生の皆さん、そして教職員の皆さんに、心から感謝です。

